



創立125周年

1885 - 2010

# 群像 創立者18人はこんな人



代言人から政界へー創立者初の衆議院議長ー



もと だ はじめ  
**元 田 肇**

1858(安政5)～1938(昭和13)／大分・国東猪俣家に生まれ、政左衛門のちに政吉と称した。元田直に才能を見出され、1871年上京、その養子となって肇と改名。翌年、開拓使学校に入学したが廃止となり、74年開成学校の貧費生となる。80年東京大学法学部を卒業、法学士代言人となる。84年、東京代言人組合会長、翌年再選。90年、第1回衆議院議員選挙に当選、以後1930年まで議員の座にあって政友会の重鎮として逓信大臣、鉄道大臣、衆議院議長を歴任。32年政党内として初めて枢密顧問官に任せられ、37年に宮中杖(鳩杖)を許された。大正から昭和にかけて、宮中で杖を許される者の数は極めて少なく、至高の栄誉とされた。出身地に因んで国東と号した。英吉利法律学校では、動産委托法などを講義。



悲運の法学士代言人



たか かし いっ しょう  
**高 橋 一 勝**

1853(嘉永6)～1886(明治19)／埼玉・川越福島県棚倉に生まれる。幼くして母を、16歳にして川越藩士であった父を喪う。1870年、家財を処分して学資をつくり上京。学資が続かず多くの学校を転々としたが、74年開成学校に入学、東京大学法学部へと進み、79年卒業。高橋は同期の山下雄太郎、磯野計の2人とともに、法学士代言人の第1号。彼らは、東京攻法館や審理社を通じて代言業務を行う一方、法学教育にも尽力。英吉利法律学校を創設した85年、東京組合代言人会長に選ばれ、東京府会議員に当選、誰もが一目を置く存在であった。翌年、これからの矢先、東京を襲ったコレラにかかり、34歳の若さで亡くなった。その死を悼み、盟友増島六一郎らの呼びかけによって、88年高橋法律文庫が設立され、175部の洋書と80冊の寄贈書が納められた。英吉利法律学校では、会社法などを講義。